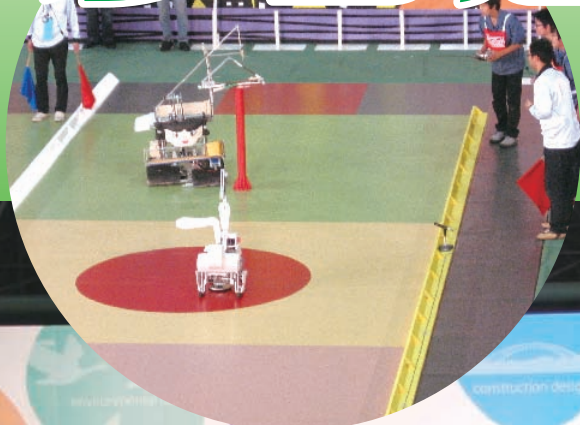


彦名通信

No. 159

平成21年12月



CONTENTS

目次

イベント特集

高専デザインコンペティション	2・3
高専ロボットコンテスト	4
高専プログラミングコンテスト	5
高専祭	6・7

クラス便り

2年機械工学科・電気情報工学科	8
2年電子制御工学科・物質工学科・建築学科	9
3年機械工学科・電気情報工学科	10
3年電子制御工学科・物質工学科・建築学科	11

クラブ便り

活動報告	12
クラブ紹介	13

寮生会便り

寮行事紹介	13
-------------	----

トピックス

トピックス	14・15
-------------	-------

地域交流

地域貢献活動・公開講座報告	16
編集後記	16

デザコン 2009 in 豊田

空間・構造の2部門で最優秀賞獲得！さらに3連覇！！

空間部門・構造部門で
3連覇！

建築学科 細田 智久

11月13日から15日にかけて愛知県豊田市で行われた全国高専デザコン2009 in 豊田において、米子高専は構造部門で最優秀賞（文部科学大臣賞、建築学科チーム）、空間部門でも最優秀賞（愛知県知事賞、建築学科4年生）、環境部門で優秀賞（建築学科と物質工学科の協働チーム）と審査員特別賞（物質工学科チーム）を獲得しました。特に構造部門と空間部門は、3年連続日本一を達成しました。

今回のデザコンはメインテーマを「やさしさ」として自然環境や美しい景観などに対するやさしさをテーマとして開催され、豊田スカイホールでの本選には建築学科・建築学専攻と物質工学科の計35名の学生が参加しました。

構造部門は木材を使った「3点支持ブリッジコンテスト」の耐荷力・軽量化・デザイン性を競いました。全国の高専から31校54作品がエントリーし、米子高専建築学科からは2チームが参加し、建築学科4年生を主体とするチーム「極（きわみ）」が見事最大荷重200kgに耐えて最優秀賞を受賞しました。

空間部門は都市と田舎の中間地域を敷地として「景観と人にやさしい住まい」を提案するものでした。予選エントリー作品数の22校253作品の中から、10作品（内米子高専建築学科が6作品）が本選でプレゼンテーションを行い、直後の公開審査会において建築学科4年生角隼人の作品が最優秀賞に決まりました。

環境部門は「環境にやさしい水質浄化コンテスト」を競い、予選エントリー作品数の14校28作品の中から、15作品（内米子高専が2作品）が本選で汚濁着色水の濾過実験を行い、2チーム共に前述の受賞を得ました。

ものづくり部門は「国産材でつくる遊具」を競い、予選エントリー作品数の15校58作品の中から、13作品（内米子高専建築学科が1作品）が本選で遊具の組立や遊び方を実演しました。

以上のように、予選が実施された3部門全てで予選通過し、さらに多くの受賞を得たことで、学生たちはこれまで学んできた意味を深く噛み締めることができたと思います。上記のチームには多くの4年生が含まれていますので、彼ら彼女らが5年生になる来年のデザコン（2010 in 八戸・青森県）でも活躍してくれると思います。学生の熱意溢れる活動は、保護者の皆様、同窓生の皆様や地域のご理解とご協力の賜物と思っております。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

■ 構造デザインコンペティション

最優秀賞（文部科学大臣賞）

「極（きわみ）」

川戸孝太（4A）、須山あゆみ（4A）、矢芝真帆（4A）、辻 法規（4A）、花田幸大（2S）、赤名博智（2S）

■ 環境デザインコンペティション

優秀賞

「バグフィルター ZERO」

海野一輝（5A）、遠藤佳純（5A）、山本順也（5A）、山本耕平（5C）、渡部周二（5C）

審査員特別賞

「タマゴについて本気出して考えてみた～活性炭に下剋上～」

遠藤茉侑（3C）、鐘撞千秋（3C）、清水香穂（3C）、洞田璃茉（3C）

■ 空間デザインコンペティション

最優秀賞（愛知県知事賞）

「境界線からボリュームへ～郊外進行形の保存～」

角 隼人（4A）

入 賞

「新家族提案」 香川恵理子（4A）

「棚田計画」 小林友加里（4A）

「Drapes - やわらかな境界線でまちづくり」

河上沙織（4A）

「緑海 ～農業体験住宅～」

澤 太介、山田祐太（5A）

「いえをうえる」 堀文（1S）

■ ものづくりコンペティション

入 賞

「いもむしくんとお花のおはなし」

青木亜矢香（5A）、石谷壮平（5A）、岩田浩司（5A）、和仁佐緒里（5A）

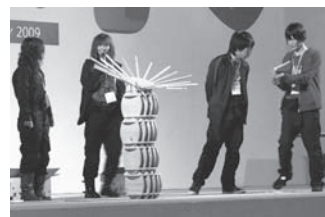
ものづくりコンペティション

5A 青木 亜矢香（入賞）

私たち4名のチームは、自然の中から「やさしさ」を学ぶ遊具を考えました。その中から「いもむしくんとお花のおはなし」というコンセプトストーリーを考え、それに沿ってキャラクターを組み立てていきました。

この遊具は、鳥取県林業試験場で職員さんの協力を得て鳥取県産材の木材で集成材をつくり、図面からレーザー切断用のデータを作り鳥取県産業技術センターで切断・加工しました。競技方法は今までのものづくりとは違い、完成した物でパフォーマンスをする内容で、大きさもゆうパックの箱3つに収めることが決められているため、部材の大きさや入れ方を考えたり、プレゼンについて話し合ったりと全員で協力して制作しました。

私たちの作品は本選入賞で、それ以上の賞を受賞することは出来ませんでした。高専生活最後の年にこのメンバーで出場できたことをうれしく思っています。最後になりましたが、この作品に協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。



ものづくり部門での発表の様子

空間デザインコンペティション

4A 角 隼人（最優秀賞・愛知県知事賞受賞、2年連続出場）

空間部門は、計6チームが予選を通過し、「景観と人にやさしい住まい」というテーマについて、参加者同士で意見を交換しながら取り組むことができました。その中から各自の思いや提案を明確にするとともに、新たな価値観や着眼点を、全員で共有することが出来た様に感じました。また、デザコン会場でも建築デザインという共通の話題で、審査員や他高専の学生と意見交換ができ、貴重な体験となりました。

昨年のデザコンで審査員特別賞を受賞した作品は、新規性を強調したものでした。今年も最初はそのような考えでスタートしたのですが、素直さの大切さに気付き、悩みや自分の弱みに正面から向き合い、課題のテーマに対して問題点を解決しながら、作品を練り上げて行きました。その結果が、最優秀賞として表れたと感じました。

最後に、応援や助言をしてくれた多くの友人に感謝します。



最優秀賞を受賞した模型の前で審査員から講評を受ける

環境デザインコンペティション

5A 山本 順也（優秀賞受賞）

今年のデザコンの環境部門は、水質浄化という課題で、ろ過装置「バグフィルターZERO」を製作し、優秀賞を受賞しました。例年の課題と異なり、建築とはあまり関係のない課題であったので自分たちだけでは難しいと判断し、物質工学科の人も仲間に加えて協働で作業を進めました。こうしてできたのが建築学科プラス物質工学科のチームです。

ろ過実験についてですが、資源ごみなどのテーマに合った材料を集めてろ過実験を繰り返しました。また、単にろ過するだけでなくろ過材の詰め方にも様々な工夫を凝らしました。その結果、最終的に高いろ過性能を持たせることに成功しました。会場での競技本番でもろ過性能を十分に発揮できたので、優秀賞を取ることができたと思います。



ろ過装置へ水を注ぎ込む様子

構造デザインコンペティション

4A 川戸 孝太（最優秀賞・文部科学大臣賞受賞）

今回はテーマが「3点支持ブリッジコンテスト」というとても難しい課題で、木材（ヒノキ）を用いてブリッジを製作し、その耐荷性能及びデザイン性を競うという内容でした。ブリッジの高さや質量の制限、一部材の断面寸法が8mm以下と制限が多い中で、建築学科からは「Three Triangles」と「極（きわみ）」の2チームが参加しました。私は2年前に米子のパスタブリッジを見てから構造部門に出たいと強く思っていたので、この半年間、本当にチームのみんなと頑張ってきました。

本番で重りを載せる際は手が震えました。事前に何度も実験して強さと軽さを求め続けた結果として、僕たち米子高専Bチームが作った「極」が最優秀賞を受賞することができました。これまで取り組んできた中で、多くの先生方にお世話になり、たくさんの方に助けていただきました。来年も4連覇を目標にして楽しく取り組んでいきたいです。本当にありがとうございました。



耐荷重（荷重200kg）競技中の様子

環境デザインコンペティション

3C 遠藤 茉侑（審査員特別賞受賞）

先日、豊田市で行われたデザインコンペティションの環境部門に参加してきました。テーマは環境に優しい水質浄化で、物質工学科からは初の参加者となり、夏休みから実験やプレゼンテーションの練習を何度も重ねてきました。結果、ろ過素材には卵というおもしろいものを発見することができ、またプレゼンテーションもうまく出来ました。

当日は、全国の高専の人たちと交流する機会があり、色々な話や他の高専の技術などを知り、とても勉強になりました。残念ながら本番の試験では、基準のろ過量をクリアすることができませんでしたが、初出場審査員特別賞をいただき、また多くの先生や学生、審査員の方々に声をかけていただいたことをとてもうれしく思いました。デザコンで学んだことを活かしていきたいです。今回のデザコンの出場において、多くの方や先生に協力していただいたことをとても感謝しています。



ろ過装置へ水を注ぎ込む様子

高専ロボットコンテスト 2009

競技課題	DANCIN' COUPLE ダンシングカップル	
中国地区大会	平成21年10月18日（日） 周南市総合スポーツセンター	
ロボット名	La・vit story	鳥 人
参加学生	5M 米澤 佑一	4D 山脇 怜
	4M 笹間あかり	4D 伊藤 夏織
	4M 西林 郁弥	4D 坂本 真悟
	4M 太田 拓巳	4D 南家 康晴
	4M 藤本滉太郎	3D 梶間 光法
	3M 近藤 利樹	3D 佐々木健太郎
	3M 篠原 篤広	3D 田中 佑治
	3M 中川 拓実	3D 三好 諒
	3M 前原 誠一	3D 影山 大介
	2M 桑本 彰文	1D 植松 誠志
	2M 對馬 伸幸	1D 安田 聖弥
	2M 西尾 一希	
	2M 松尾 英嵩	
	1M 桑原 健	
	1M 宮本 翔太	
結 果	デザイン賞 特別賞 (マブチモーター)	特別賞 (本田技研工業)

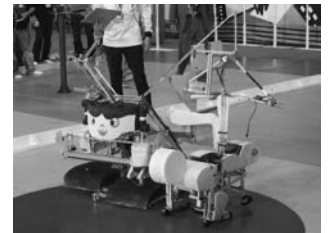
● 高専ロボコン2009中国地区大会結果報告 ●

指導教員 機械工学科 矢壁 正樹

10月18日周南市にて高専ロボコン2009中国地区大会が行われ、本校からはM科チーム製作の「La・vit story」とD科チーム製作の「鳥人」の2つのロボットで参加しました。本年度のテーマ名はDANCIN' COUPLEで、手動ロボットと自動ロボットの2台のロボットが協調してダンスを披露して得点を競うというルールです。本校の2つのロボットは校内大会後に改良を重ね、ロボットの動作は格段に良くなっており、ある程度の結果が残せる期待もありました。しかし、1回戦でD科チームは松江高専と対戦し、双方とも得点をあげることができず、審査員判定により敗退、M科チームは広島商船高専と対戦し、0-20で敗退という結果に終わりました。しかし、ロボットの機構を評価していただき、M科ロボットはデザイン賞と特別賞の2つを受賞、D科ロボットはホンダ技研特別賞を受賞することができました。本年度は全国大会に出場することはできませんでしたが、来年度はさらに良い結果が残せるように、学生共々頑張っていきたいと思っております。応援いただいた保護者・本校教職員の方々には紙面をお借りして、御礼申し上げます。ありがとうございます。



La・vit storyのテストラン風景



La・vit storyの全体写真

● デザイン賞・特別賞を受賞して ●

5M 米澤 佑一

今年の全国高等専門学校ロボットコンテスト2009の中国地区大会で機械工学科のAチームのロボット『La・vit story』が、『デザイン賞』と『マブチモーター特別賞』を受賞しました。惜しくも、全国出場を逃しましたが、チーム全体で製作した兎型の自動ロボットの兎らしい歩行などが認められ、賞を2つも頂くことができました。それには、担当の教官、ものづくりセンターの先生方々、保護者の方々の協力があり、そして、今年は、5年生が自分だけだったので、下級生にはかなり負担をかけてしまいましたが、4年生から1年生のメンバー15人の努力があり、賞をいただけたと思っています。



La・vit storyのテストラン風景

● 特別賞を受賞して ●

4D 山脇 怜

私たち電子制御工学科チームは、新メンバーを8人加え、大会に挑みました。歩行主体の競技ということで、より良い歩行を求め、夏休み返上でロボットを製作しました。しかし、その間にロボコン経験者が校外実習で抜けてしまい、完成度は決して高くない状況で大会を迎えました。大会では1回戦で松江Aと対戦し、判定で負けてしまいましたが、本田技研から特別賞をいただくことができ、結果には満足しています。今年は後輩に負担をかけてしまいましたが、この経験を次に繋げ、納得のいく結果に結び付けたいと思います。最後になりましたが、御支援くださった本校の教職員の方々、OB、そして保護者の皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。



出番を待つメンバー

全国高専第20回プログラミングコンテスト

第20回プロコンを終えて

指導教員 電子制御工学科 河野 清尊 (課題部門)
電気情報工学科 松本 正己 (自由部門)
一般科目 (数学) 倉田 久靖 (競技部門)

第20回プロコン本選が10月17日(土)と18日(日)の両日、千葉県木更津市の「かずさアカデミアホール」を会場にして行われました。大会は6月末の書類審査による予選を通過した課題部門20作品、自由部門20作品および競技部門59チームによって競われました。また、課題部門と競技部門には、ハノイ国家大学(ベトナム)、大連東軟情報学院(中国)、国立聯合大学(台湾)、モンゴル国立大学からの参加があり、高専からの参加チームを含めた記念すべきNAPROC第1回国際プログラミングコンテストとしても開催されました。

米子高専からは、課題部門と自由部門に各2作品および競技部門に1作品の応募を行い、5年連続のフルエントリーを達成することができました。そのうち、課題部門と自由部門の各1作品と競技部門の1作品が予選を通過して本選に出場しました。新型インフルエンザの影響で出場できないチームがある中、本校からは、全員が無事出場することができました。(ただ、帰ってから2名が発症しご迷惑をお掛けしましたが…) 本選の結果を別表に、出場した学生の感想を以下にまとめました。

課題部門に出場した電子制御工学科チームは、2連覇を達成することはできませんでしたが、作品の高い独創性が認められ「特別賞」を受賞することができました。自由部門に出場した電気情報工学科チームは、全員が2年生という経験の浅いメンバーでしたが、そのチームワークで作品を完成させ、本選に臨むことができました。競技部門に出場したコンピュータ同好会チームは、結果こそ出せませんでしたが、貴重な経験を積むことができました。参加した学生達は、今後、スキルアップを重ね、来年の第21回大会(高知高専主管、高知市開催)に再度チャレンジしてくれることと思います。

水島校長先生をはじめ応援してくださった教職員のみなさん、本当にありがとうございました。また、毎年、製作費の援助をいただいている米子高専振興協力会の会員企業の方々にもこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後ともみなさんのプロコンへのご理解とご支援を宜しくお願いします。

部門	課題部門 テーマ:「ゆとりを生み出すコンピュータ」	自由部門	競技部門 テーマ:「何色? サッと見発見伝」
作品名	特命操作官ハンカChief —ハンカ型入力インタフェース—	UU-Note —のーどえびおりゅーしょん!!—	MAWASE!
参加学生	2S村田大介、2S吉岡慎二 5D和田泰治、2D廣池颯人 2D廣江 翼	2E木村勇太、2E成相雅樹 2E松上寿支、2E清水一貴	4D左久間一幸、4M湊崎佑也 3E澤下 陽
結果	特別賞	敢闘賞	1回戦敗退 敗者復活戦敗退

(第20回大会の結果・模様はプロコン公式サイトに掲載されていますのでご覧ください。 <http://www.procon.gr.jp/>)

【課題部門】

プロコンに出場して

5D 和田 泰治

初めてプログラミングコンテストに参加して、開発や準備は非常に大変でした。本選1週間前の米子高専45周年記念イベントにて展示した際には、重大な問題が発覚して急遽システムを大幅に改良しなければならないという事件もありましたが、なんとか間に合わせることができました。本番ではけっこう楽しむことができましたし、プレゼンテーション審査では練習よりも上手くできたので非常に満足しています。他高専の作品を見て回り、発想にも完成度の高さにも驚くことばかりでした。結果として特別賞をいただきましたが、技術的なことはほとんど何もできなかったことを反省すると共に、もっと勉強して力をつけていきたいと思っています。



【自由部門】

プロコンに参加して

2E 木村 勇太

プロコン本戦出場が決まってから約4ヶ月、私たちは右も左もわからない状態から出発しました。それぞれのメンバーがほとんどゼロの状態からプログラムを学び、顧問の先生や先輩方にアドバイスをいただきながらの製作となりました。大会が近くなるにつれ、焦りや不安が大きくなり、「本当に完成するのだろうか?」と考えることもありました。しかしメンバー同士が協力し、お互いの得意な分野を生かして、大会数日前になんとか完成まで漕ぎ着けました。大会当日、自分たちの思っていた以上に周りとの差は厚く、敢闘賞という結果に終わりました。来年の大会には、今回での経験・反省を生かし、より一層技術の向上を図って臨みたいと思います。



【競技部門】

プロコンを終えて

4D 左久間 一幸

今回のプログラミングコンテストは私にとって3度目の参加となりました。私を含め3人のメンバーで開発を進めていたのですが、今回の競技部門「何色? サッと見発見伝」は非常に難しく開発は困難を極めていました。しかし、メンバーの協力や先輩方の助力のおかげでなんとか参加に至ることが出来ました。やはり人と人との繋がりはとても大切なものだとしひしと感じました。

実際の試合では全力を尽くして戦いましたが、1回戦、敗者復活戦ともに勝つことが出来ませんでした。残念な結果となってしまいましたが、たくさん得たものがあったように思います。プロコンに関わった全ての方にこの場を借りてお礼申し上げます。

第46回 高専祭「凜」

高専祭実行委員長 4E 谷本 大和

今年の高専祭はあいにくの雨模様でしたが、新型インフルエンザ流行による高専祭中止も心配された事を考えると、無事最終日まで開催でき安堵しています。天気は優れず、大山に雪が積もるほどの寒い中での開催で、学生のみならずも例年ほどは楽しめなかったかもしれません。それでも各クラス・部活・同好会の企画や科展の一つ一つがとても充実していて内容としては完成度の高い高専祭ではなかったかと思います。

今年のテーマは「凜」。漢字たった一文字のシンプルなテーマです。言葉の意味は、「態度が引き締まっているさま」「りりしいさま」です。さらに、「繋がる」という意味もこめてあります。

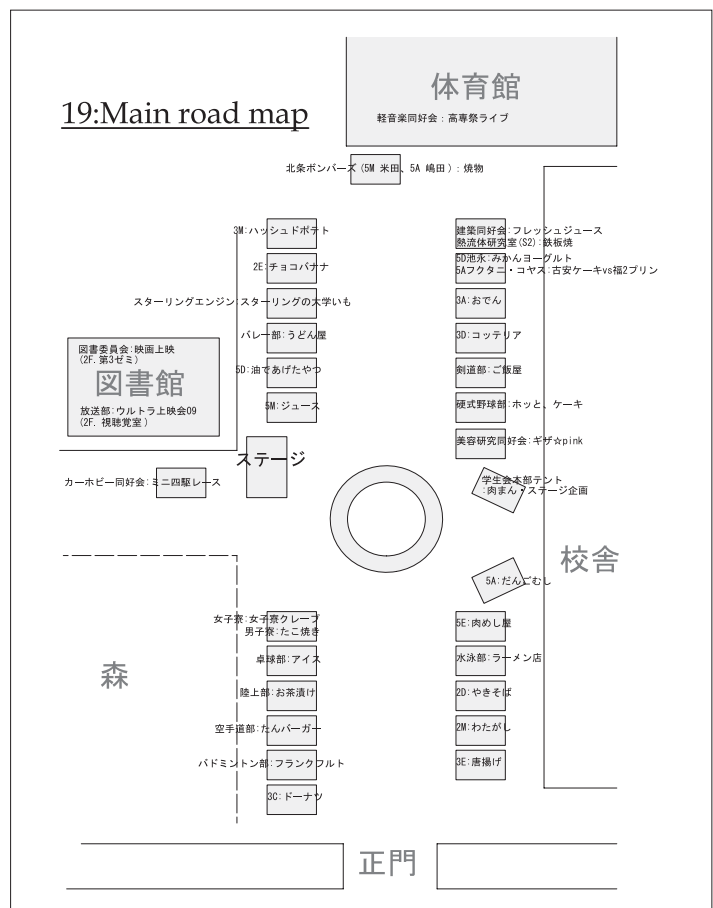
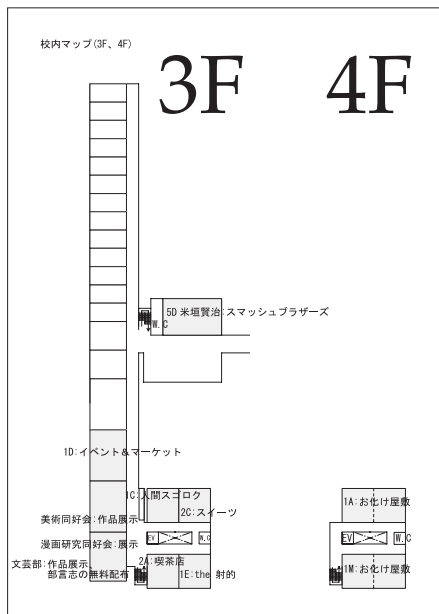
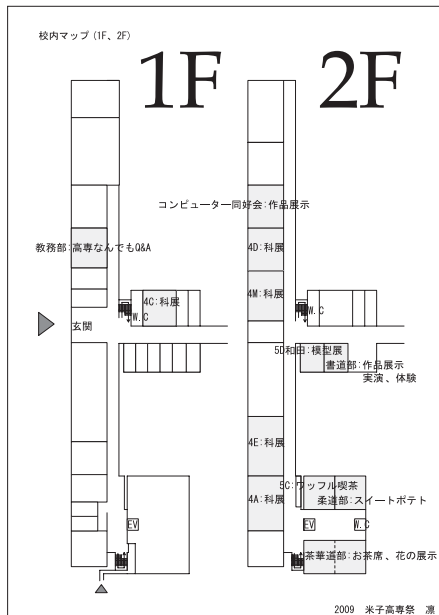
この一字に米子高専生の想いがこめられています。

今年の高専祭は、春から準備を進め、夏休みはスポンサーになって頂ける企業を探し回り、夏休み明けには本格的な準備へと移っていきました。学生会員は授業が終わるとすぐに学生会室にやってきて皆必死に準備をしていました。

本当に沢山の人が高専祭を成功させようと協力してくれ、誰も見返りを求めず、何一つ文句を言わず、ただただ高専祭という一つの目標に向かい尽力しました。当日も雨風が強い中で予想外の出来事が多々起こりましたが、強い団結力で乗り越える事ができました。

あっという間に高専祭は終わってしまいましたけれど、その中でいろんなことを感じました。

高専祭に関係された全ての方、どうもありがとうございました。



茶華道部



学生会本部

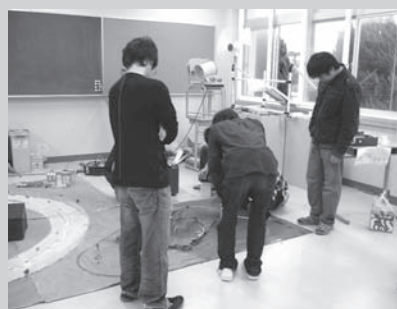


書道部

■ 科展



4 M



4 E



4 D



4 C

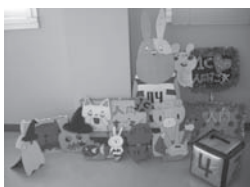


4 A

人間スゴロクΣ(°д°)

1 C 安部 希綱、萩野 大輔

僕達1年物質工学科は、人間すごろくをしました。最初、人間すごろくに決まった時は、正直、これムリッって思いました。そんなこんなで、気が付けば高専祭1週間前になっていました。これはマズイと思い、ダンボールを集めて作業に取り掛かりました。はじめ、協力してくれる人はとても少なく、すごく焦りました。しかし、高専祭が近付くにつれて、協力してくれる人は増えていきました。高専祭当日は、最初、お客さんの数が少なく、やはりこんなもんかと思いましたが、昼からとても忙しくなり、景品のお菓子の不足やサイコロの不足などの問題も発生し、大変でした。高専祭が終わり、これまでのことを振り返ってみると、とても達成感がありました！



最後の高専祭

5 D 村田 洋一

毎年11月の一大イベントの高専祭も5年生にとっては今年で最後です。今年の5 Dの企画はフライドポテトをすることになりました。当日は雨天の中始まりましたが、5 Dのテントは予想以上に多くの人に来ていただきました。また普段の学校生活ではクラスで1つのことに取り組むという機会がないので、みんながとても楽しく企画をすることができたと思います。2日目も天候が悪く、準備がなかなかできなかったのですが企画を行うことはできませんでしたが、最後の高専祭をしっかりと楽しむことができました。個人企画や部活の企画で、クラスの全員が一緒に参加することはできませんでしたが、一人一人がよい思い出を作ることができたと思います。



ステージ企画



吹奏楽部



カーホビー同好会



文芸部



1 D



1 E



5 C



雨の体育館前

2 年



学年主任 一般科目
原 豊 二

2年生は、10月14日（水）から15日（木）にかけて校外研修旅行に行ってきました。世界遺産に登録された石見銀山では、その歴史と文化を学びました。途中、急な雨に打たれることもありましたが、現地ガイドの丁寧な説明もあり、充実した内容となりました。採掘跡である間歩は、ひんやりと静まり返り、学生たちはその長い歴史を感じ取っていました。また、三瓶山の麓にある三瓶青少年交流の家（宿泊場所）では大自然に触れることができました。ハイキングやサイクリングといったメニューでは、すがすがしい空気の中、クラス・メートとともに楽しい時間を過ごしました。全クラスで実施したバーベキューでは、協同作業を行うことを通して、クラスのつながりがさらに強まったと思います。1泊2日という短い時間でしたが、宿泊を含めた行事ということもあって、2年生にとってはとても良い思い出になったようです。

■在籍学生数

() 女子の内数

2M	2E	2D	2C	2A	計
39(3)	48(3)	41	41(18)	48(19)	217(43)

機械工学科



校外研修について

石飛 達也

今回の研修では、普段の生活とちがって自由に行動できず不便なこともあった。でも、みんなと一緒にいて楽しいこともあった。特に野外炊飯はみんなと協力してつくり、一緒に楽しく食べることができてよかった。石見銀山は、ずっと歩いて正直しんど

かった。でも、今まで知らなかったことを知ることができてよかった。また今回のような体験をしたいと思います。

校外研修について

井田 康夫

今回、三瓶山に行き、普段は経験できないような様々な体験をした。学校ではあまり話さない人と生活や活動をし、お互いのことを少しでも知るいいきっかけになったと思う。そして友達の今まで知らなかった一面も見ることができ、とても楽しく過ごすことができた。様々な活動をしてきたなかで最も印象に残っているのは、石見銀山の見学だ。銀が発掘されていた銀山や、その銀によってさかえた町の様子を見てまわることができ、とてもいい体験ができた。その他にも様々な活動を通してクラスのみんなとより親しくなることができ、とてもいい校外研修だったと思う。

電気情報工学科



研修旅行

三浦 将人

今回の研修旅行は、石見銀山に行きました。石見銀山は、採掘から精錬までの作業がすべて人力・手作業で行われていた当時の、採掘場などの保存状態が良く、観光できる場所が多いので、観光していて

一時も飽きることがないほど、興味が尽きない所でした。さらに、石見銀山には人を引き付けるような独特な雰囲気があって、「やっぱり世界遺産に登録されるような所はすごいなあ」と思いました。

高専祭を終えて

矢田貝祐輔

今年の高専祭はとにかくハプニングだらけでした。開催1週間前に突然の新型インフルエンザで学級閉鎖。閉鎖が明けたのが、開催5日前。まだ何も決まっていなかった状態からのスタートでした。だけど、学級委員をはじめとした実行チームの活躍もあり、ギリギリでしたが、無事開催することができました。ですが、1日目と2日目に雨に打たれ、特に2日目は強風も吹きつけたりして、午前中だけでしたが、みんなとの協力もあって、無事終えることができました。来年は天気にも恵まれることを祈っています。

電子制御工学科



校外研修旅行を終えて 貝田 悠輔

校外研修旅行で楽しかったことは、野外炊飯のバーベキューです。道具を出したり、材料を揃えたりを自分達で行いやりがいがありました。この時期に三瓶山の屋外で行ったから少し寒かったけどクラスの班全員で協力して、火をおこし、米を炊き、野菜を切り、バー

ベキューコンロを囲んでの夕食が楽しい思い出となりました。2日目の石見銀山遺跡の散策もガイドの人に説明してもらいながら山道を歩いたことも楽しかったです。少し歩くのがつらかったけど、自然がきれいって空気も澄んでいたの来て良かったと思いました。

いろいろあったけどクラスの皆と楽しく過ごすことができたのでよかったと思いました。

高専祭を終えて

田中 勝也

今年の高専祭で僕は実行委員をしました。クラス企画の準備や費用の計算とか色々大変だったけどもう一人の実行委員が助けてくれたし、クラスの皆も協力してくれたので嬉しかったです。

2Dの企画は屋外で「やさそば」をしました。ちょうどインフルエンザが高専にも入ってきて中止になりそうだったし、高専祭当日は雨天でテントの中での準備、調理も大変でした。その中で、学生会から何回も的確な指示を出していただきうまく運営できました。1年に1度しかない高専祭の日が雨というのは残念だったけど、その雨の中でもクラスの皆が協力合って自分達の出来ることが全て出来たと思うし、皆が楽しめた高専祭になったと思います。

物質工学科



研修旅行

嘉村 茅夏

歌ったり笑ったりしていたハイキングの途中、雷が鳴り、雨が降ってきたのでサヒメルという資料館へ行きました。自然や三瓶についての展示はとても勉強になったし思っていたよりも面白かったです。バーベキューでは

火をおこしたり米を鍋で炊いたり大変でしたが、クラスの人とわいわい言いながら食べてとてもおいしかったです。途中何人かで広場に出たら空一面きれいな星で埋められていたのが感動でした。流れ星も見ることができました。とても輝いていて思い出に残りました。

高専祭を終えて

香川 莉穂

今年の高専祭は去年とは違って食品を扱うということで前もって作ったりということが難しく、当日の準備がとても大変でした。材料を調達するのなるべく安いものを買うためにいろんな店を回り少しでもお金をかけないようにと頑張りました。去年のように軽音部によるLIVEなどを見る余裕はありませんでしたが、高専祭を通して商品をお客様に喜んでいただくため、そして自分たちの利益のためにどのようにすればよいのか考えることが出来、良い経験が出来たと思います。

建築学科



校外研修旅行

中西 和

今回の研修旅行で、沢山の自然とふれ合うことができました。1日目の石見銀山までの道は、とても涼しくて、林の中はジブリの世界みたいで素敵でした。途中雨と風が強くなって大変でしたが、みんなで走って雨宿りした

りして雨も楽しかったような気がします。洞窟の中は人が通れる空間が続いて、昔の人が色々な工夫をして掘り進めたと知りました。大人の入れない狭い部分は小さな子どもが作業していたと聞き驚きました。

2日目のバーベキューは、友達と騒ぎながら薪や炭で火をおこすところから始め、ご飯の鍋に洗剤を塗り忘れて黒くした事以外は上手くでき、楽しい経験ができました。

高専祭

椿 翔平

高専祭はとてもおもしろかったです。僕たち2年建築は喫茶店を行いました。しかし、ただの喫茶店では面白くないので、僕たちはメイド服を着て接客をしました。ビラ配りなどの宣伝を行った結果、沢山の人が来てくれました。最初は不安でしたが、多くのお客さんが入ってくれるようになってきたら、不安が一気に消えてとても充実した高専祭になりました。来年もみんなで楽しめて充実した出し物にできるように企画したいです。

3 年



学年主任 電気情報工学科
乾 正 博

3年生は10月14日から16日の2泊3日の日程で工場見学旅行に行きました。見学先は見学旅行の主旨に沿って、各学科別に関連する工場、展示会場、あるいは建築構造物などを先生方で選定していただきました。関西方面限定とはなりますが、山陰地方では見られない大規模工場、展示場、建築物について見学し、中には感動を覚える学生もいたりして、貴重な体験になったと思います。特に今年は新型インフルエンザ対応に気を遣いましたが、幸いにも大きな問題も無く、元気に戻ることができました。また、今年は教育GPによる「環境教育」が前期から行われ、中海船上視察、及び中海の環境に関する講演会が実施されました。学年末には、昨年度以上の成果発表がされるものと期待しています。

■在籍学生数			() 女子の内数		【 】 留学生の内数
3M	3E	3D	3C	3A	計
46(1)【1】	44(2)	38(1)【1】	43(19)	37(12)	208(35)【2】

機械工学科



工場見学旅行を終えて 藤井 祐太

10月14～16日の3日間、工場見学旅行で工業系の4社を見学させていただきました。そこで驚いたのがその規模の大きさです。三菱重工業高砂製作所で製作されているタービンには多くの羽根がついていて、その1つ1つの大きさが数メートル、またそれ

を加工する機械も普段実習で使っている物の何倍もあり、その大きさに圧倒されました。今回の工場見学旅行では、普段見たり聞いたりできない貴重な体験をすることができ、充実した3日間になりました。

資源を大切に！ 妹尾 康德

僕達は今回の研修旅行で、4つの企業を見学させていただきました。

パナソニックでは、古い家電製品のリサイクルをしていました。ブラウン管ガラスの分解技術や冷蔵庫の廃棄物から樹脂を回収する技術など新しい技術を開発・導入していました。今後は、リサイクルしやすい材料や設計、環境にやさしい材料を使用し、新しい商品の開発に取り組むと聞きました。

僕達も、身の回りから何かができるのではないのでしょうか？

電気情報工学科



見学旅行に参加して 前田 俊樹

この見学旅行で強く印象に残ったのは、シャープの技術館でした。実際に見るのは初めての液晶や太陽電池の技術と応用製品でした。たとえば、見る角度によって異なった画面が見える液晶ディスプレイでは、左右から見た時の画像の違いが想像以上で、

これには感動しました。さらに見る角度により、3つの画面が同時に見えるディスプレイを開発中とのことで、非常に興味が湧きました。また、他の会社では、産業界で活躍中の機器や世界初の製品が生産されていて、進路決定の参考にしたいと思いました。

演劇鑑賞会「十二人の怒れる男たち」を観劇して 日下部裕一

裁判にかけられた少年を裁く12人の陪審員のうち11人が、判決を有罪としていましたが、残る1人が無罪の理由は無いにもかかわらず、さらに話したいと主張しました。結局、少年は無罪となったのですが、この陪審員達の壮絶な話し合いから、感情だけで物事を考えてしまったら正しい判決が出ず、少年の一生を台無しにしていだだろうと思いました。この演劇から人を裁くことの難しさや、将来、自分が当事者になるかもしれない裁判員制度について考えるきっかけとなりました。

電子制御工学科



高専祭を終えて

田中 佑治

3Dは今年の高専祭でコッテリアという名前で店を出し、唐揚げ、フライドポテト、串カツを販売しました。初日は、多くの人からご注文を頂きたくさんの商品を販売することができました。2日目は平日の上、悪天候だったため、お客が少ないだろ

うと予想していましたが、思いの外多くの人が足を運んでくださり、最後までコッテリアを続けることができました。僕たちのクラスは多種類の商品を販売することが初めてで、一番推していた串カツがなかなか売れず悔しかったです。串カツを買って頂いた皆様ありがとうございました。(笑)

工場見学をして

上田 雅宗

10月14日の良く晴れた朝に僕は2泊3日の工場見学旅行に出発しました。

3Dはサントリー、ダイキン、古野電気の3企業を見学することになっており、初日はサントリーに行きビールが出来るまでを見学し、2日目はダイキンでエアコンの生産過程を見学、3日目は古野電気でレーダーの生産過程を見学しました。

この工場見学旅行では、身近にあるものの普段目にするのこない一面を見る機会と、企業の方に直接質問する機会があり、特に企業の方への質疑応答は体験談などの話をさせていただきとても参考になりました。この度の工場見学旅行は今まで知らなかったことを知ることが出来、とても有意義な旅行になりました。

物質工学科



工場見学旅行を終えて

竹中 慎

工場見学旅行では3つの工場を見学しました。その1つのサントリー京都ビール工場では、ビールの原料である麦を試食したり、ビールの製造工程を実際に見ることができました。また、高専を卒業し勤務されている方が工場のこ

とや実際の仕事の内容、さらには自身が高専に通っていたときのことなどを分かりやすく話してくださいました。今回の工場見学は、私にとって貴重な体験となりました。この体験を将来の進路選択に生かせたら良いと思います。

高専祭を終えて

安野 舞

私のクラスは高専祭企画で1、2年とも「迷路」をしてきたので、飲食関係の企画は今年が初めてでした。ドーナツを作ることに決まったものの、事前準備で何をしたらいいのかも分からず、指示も遅れて、クラスみんなにはすごく迷惑を掛けてしまいました。それでもみんな責めるわけじゃなく、支えてくれてなんとかドーナツを作ることができました。

高専祭当日は、大雨やフライヤーが壊れていたせいで外でドーナツを売ることができませんでしたが、みんなで協力して歩き売りだけでたくさん売ることができました。来年の科展もクラス一丸となって頑張りたいと思います。

建築学科



工場見学旅行を終えて

森岡 涼太

工場見学旅行では、大林組の建設現場を見学させて頂きました。2年以上の長期にわたる工事だけあり、施設内の多目的な設備や完成予定の建物のデザイン性にも非常に迫力を感じました。また建物の構

造部分は、授業では学習していましたが実物をあんなにも間近で見たことはなかったため、非常に勉強になりました。実際に働いていらっしゃる大林組の方々のお話もためになるものばかりで、建築に対する将来のビジョンなどを強く意識することができました。

人と防災未来センターの見学

前畑 佑二

最初の地震の再現映像はこわかったです。よく前の幼稚園児は泣かんーと感心しました。次の被災者の子供の語りのドキュメントみたいなのはその人の苦労を思うと泣きそうになりました。ここはとても地震の恐怖を忠実に伝えていて見ててしんどかったけど、将来しっかりした建物をつくらないけんーと改めて考えさせられました。ここでの唯一の悔いはおしゃべりなおじさんに絡んでしまって集合時間に遅れたことです。3Aのみなさん御迷惑をおかけしてすいませんでした。

高専大会を振り返って

5D 新田 将貴

早いもので今シーズンが終わってしまいました。新しいチームを主将として率いてきましたが、今年も全国へ連れていけなかったのが残念です。今年の高専大会ではインフルエンザの影響で、試合もできずに帰らなければならないという状況に追い込まれました。しかし、開催校の先生方のおかげで試合をさせてもらえることとなり、結果的にその事でチームがまとまり強敵呉高専を倒しパート優勝することができました。代表決定戦には敗れてしまいましたが、監督コーチなど多くの方に支えられ、主将としても多くの事を学びました。そして今大会は思い出深い大会となりました。応援ありがとうございました。



県高校新人戦に出場して

2D 藤村 駿造

平成21年度鳥取県高等学校テニス新人戦（個人の部）が10月17日～19日の間、東山テニスコートならびに本校でありました。僕は2年電子制御工学科の横山大志君と組んで個人ダブルスに出場しました。結果は3位でした。準決勝で米子東の2年ペアに0-6で負けました。相手の雰囲気にもまれてしまい自分達のテニスができていませんでした。来年はみつけた課題を克服して、高校総体で中国大会に参加し、1回でも多く勝利できるように日々の練習に励んでいきたいです。



合唱部の活動報告

5D 伊藤 夕佳

私たち合唱部は、合唱コンクールに出場したり、高専祭、吹奏楽部の定期演奏会また入学式や卒業式で歌わせてもらっています。合唱曲だけでなく、ポップスも歌ったりもしています。目指すは、「歌って踊れる合唱団」というのは冗談ですが、みんなが楽しんで歌えることを目標としています。私たちがらしい、私たちにしか作れない音楽作りを大切にしていきたいです。

今年の大会報告としては、第48回全国合唱コンクール鳥取県大会で銀賞、第48回全国合唱コンクール中国大会では銅賞をもらいました。（写真は、今年鳥取県大会のものです）



高校新人戦男子シングルスカルで準優勝しました

1E 石畑 祥太郎

10月24、25日にボート競技の高等学校新人戦が鳥取市にある湖山池漕艇場で開催されました。僕は男子シングルスカルの部に出場し準優勝しました。

「ボート」という競技を聞いて「カヌー」と勘違いする人も多いと思います。僕が乗っている「シングルスカル」という艇は写真のような非常に細い一人乗りの船で、片手に一本ずつオールを持ちスピードを競います。特徴は進行方向が後ろ向きになるということです。

決勝では国体4位の米子工業高校の選手に優勝を奪われました。優勝者との差が10秒くらいあるので、この冬場のトレーニングを大切にして、来年の春の大会に向けて1秒でも差が縮まるように努力したいです。



訂正

学生主事 竹内 彰継

前号の彦名通信（No.158）のクラブ活動・各種大会報告でバスケットボール女子の中国地区高専体育大会での結果報告が欠落しておりました。教職員及び学生の皆さんにはこの場をお借りしてお詫び申し上げますとともに、あらためて結果をご報告いたします。

中国地区高専体育大会（平成21年7月3日～5日）
バスケットボール女子 4位

クラブ紹介

ひさしぶりの優勝 —柔道部—

顧問 一般科目 永井 猛

今年の夏、柔道部はひさしぶりの優勝にわきかえった。中国地区高専体育大会の個人戦90kg超級で1Eの中曽哲史君が優勝したのである。平成11年に個人戦(重量級)で優勝して以来、10年ぶりの快挙である。平成10年には、団体戦(5人戦)と個人戦3階級制覇という輝かしい戦績をあげたが、ここしばらくは「優勝」の二文字から遠ざかっていた。中曽君の優勝をバネに団体戦・個人戦ともに良い戦績をあげてくれることを願っている。



中国地区大会のほかに、松江高専との定期戦(団体戦のみ)が年1回あるが、ここしばらくは勝っていない。中国地区では広島商船高専と松江高専が強く、当面の目標は打倒松江高専である。1年から3年までは、高専の大会のほかに高校の試合にも参加している。今年の戦績は今一步であった。

対外試合のほかに、年4回(米子市2回、境港市2回)の昇段審査があり、毎年新しい黒帯が誕生している。

クラブ紹介

科学部

4E 堀江 麗、4D 坂本 真悟

科学部は現在、天文班と環境班の2グループで活動しています。

天文班では、天文関係の研究を行っています。望遠鏡にCCDカメラを装着して天体を撮像し、そのデータを解析して毎年日本天文学会春季年会のジュニアセッションにて研究発表を行っています。また、アマチュア天文愛好家向けの雑誌「天文ガイド」の読者の天体コンテストへの応募も行っており、今まで複数回受賞しています。さらに、近隣の小学校などに赴いての出張天体観望会を開催するという天文普及活動も行っています。



環境班では、身近な環境問題である光害(ひかりがい)について、調査・研究を進めています。光害とは、過剰な人工照明によって、星が見えなくなったり、歩行者や夜行性動物に悪影響が及んだり、エネルギー浪費(地球温暖化)に繋がっている、というものです。私達は、夜の町の明るさを調査し、その影響を調べています。一昨年度より、環境班も日本天文学会ジュニアセッションに参加し、毎年の成果を発表しています。

寮生活会り

栗島神社清掃

高砂寮文化委員長 3M 黒田 光一郎

今年も寮の行事として、栗島神社の清掃奉仕作業が9月9日の放課後に行われました。この取り組みは、秋の例祭を行うにあたって栗島神社の敷地内の草取りと参道の清掃を目的とした活動です。主に参加したのは、男子寮と女子寮の1年生と寮生活会員が行い、さらに地元の栗島寿会の方々と一緒に作業しました。

まず、作業をするにあたっての諸注意や栗島神社の歴史についてのお話を栗島神社の宮司の方が話されましたが、その中でも栗島神社に祭られている神様は手に乗るほど小さく、おとぎ話に出てくる一寸法師のモデルになったという伝えがあり、医療を人々に広めた神様だったという話がとても印象的でした。

また、この栗島神社は高専生が部活動などでよく走りくる場所であり、地域の方と高専生とのつながりの場でもあるので感謝の気持ちを込めて掃除をしました。このような活動をこれからも積極的に行っていきたいと思います。



高専祭バザー

高砂寮寮食委員長 3M 田邊 岳康

今年はインフルエンザのため、例年よりも徹底した衛生管理のなか、もしかしたら中止かもしれないという不安を抱きながらの高専祭となりました。そのような中、男子寮は今年もたこ焼きの販売を行いました。日曜日と月曜日という日程や雨や突風といったトラブルもあり、売れ行きが心配されましたが、悪天候のなかたくさんの方にお買い上げ戴き、完売するという形で無事に終えることができました。



高専祭の成功はたくさんの人の協力があったからでした。最初から最後まで寮役員の方、寮食の方、そしてたこ焼きを焼いてくれた1、2年生にはお世話になりました。ありがとうございました。たこ焼きを買ってくださった方、本当にありがとうございました。ぜひとも来年の男子寮のたこ焼きもよろしくお願い致します。

白鳥寮寮食委員長 2A 廣瀬 未佳

女子寮は今年も高専祭でクレープを作りました。昨年、先輩たちがとても忙しそうに仕事をしているのを見ていたので、私に寮食委員長が務まるかどうか不安でした。今年の高専祭は両日とも天気にも恵まれませんでした。雨風が強かったので、いつものようにテントでクレープを巻くことが難しくなり、急ぎょ寮食堂を使わせていただきました。急なハプニングで素早く対応できず、いろいろな人に迷惑をかけてしまい、申し訳ないです。特に1年生にはクラスの出し物で忙しい中、準備や片づけなどを手伝ってもらい感謝しています。いろいろハプニングもありましたが、売れ残ることなくなんとか完売することができて良かったです。

第25回中国地区高専英語弁論大会

一般科目 中井 大造

11月14日（土）に呉高専を主管校にして、広ステーションホテルで開催された。暗唱の部16名、弁論の部14名の参加があり、各高専で研鑽を積んで来た発表者は、その成果を遺憾なく発揮し、聞きごたえのある大会であった。本校からは各部門に2名ずつ、計4名が参加し、暗唱の部で1C長谷川美桜さんが2位、1D寺西心さんが3位に入賞。弁論の部では4D田邊良君が3位に入賞した。長谷川さんは、ラフカディオ・ハーンの書いた怪談の中の「耳無し芳一」を、寺西さんは英語で書かれた落語「松山鏡」を朗唱し、夏休み前から練習してきた成果を十二分に発揮することができた。田邊君は自らのヨット部の体験を元に、ヨットの楽しさをホワイトボードや写真を使って楽しく発表した。惜しくも優勝は逃したが、今年の参加者は来年度以降も上位を目指して精進してくれるものと期待している。



暗唱の部

平成21年度学生議会に参加して

1S 山池 千奈緒

10月15日、鳥取県議会本会議場にて平成21年度学生議会が開催されました。この議会の質問者は県内の大学生・高専生・高校生であり、答弁は平井知事をはじめとする県の執行部が行いました。今回米子高専からは、専攻科1年の2人が参加させて頂きました。

全体として質問内容には、県政への提言が多く含まれており、最も重要な議題ばかりでした。それらの質問に対し、県議会議長より「政治に無関心な若者が多いという昨今、よく勉強され、しっかりと自分の考えを持っており、意識の高さに非常に驚いている」というお言葉を頂きました。当日は予め原稿が用意されている状態での本番でしたが、原稿無しで本当の意味での議論を行うことができたのなら、より一層よかったですと思います。

最後に、このような機会を与えて下さった加藤先生をはじめとする県議会の皆様に厚く御礼申し上げます。



第2回オープンキャンパス 大盛況でした

教務主事補 建築学科 山田 祐司

11月14日（土）に第2回オープンキャンパスを開催しました。午前は在校生の生の声を聞いてもらった後、入試過去問題の解説（数学、理科、英語）、校内自由見学を行いました。午後は各学科の体験授業、希望者による寮見学でした。この内、入試過去問題の解説は今回が初めての試み、校内自由見学は昨年までのキャンパスツアーからの実施形態変更となります。これらの試みが受け入れられたためか、参加者は約150人と昨年の2倍となりました。

各催しとも大変好評でした。アンケート集計での主な結果を示します。

在校生の声：参考になった（30人）、発表者が良かった（20人）、高専に入りたい気持ちが強まった（13人）
入試問題解説：難しかった（27人）、分かりやすかった（22人）、時間をもっと長く（18人）、ためになった（15人）
校内自由見学：広くてきれい（20人）、多くの学科が見られた（19人）、自由に回れて良かった（15人）、施設や設備が良かった（11人）



入試問題解説



校内自由見学



校内自由見学



校内自由見学



専門学科体験授業



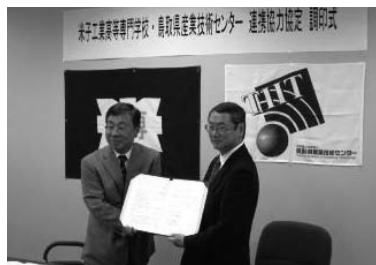
専門学科体験授業

鳥取県産業技術センターとの 連携協定締結について

地域共同テクノセンター長
機械工学科 足立 新治

米子高専と（地独）鳥取県産業技術センターは去る9月29日、従来から築いてきた協力関係をさらに発展させ、相互に連携して双方の研究成果等を地域社会に還元等することにより、地域の産学官連携を推進し地元企業等及び地域社会の発展に貢献することを目的として連携協力協定を締結しました。連携協力の内容は、研究成果や企業の技術ニーズ等に関する情報交換、企業等からの技術相談への対応支援と共同研究・受託研究の推進及び学生のインターンシップの支援など7項目にわたっています。今年度は、小規模な水力で発電できるマイクロ水力発電システムの開発や学生のインターンシップをより充実させるための取組みについて検討を進めるなど、協力関係を推進していくこととしています。

調印式で水島校長は「この協定を契機により一層緊密な協力関係を構築し、鳥取県の産業振興に貢献していきたい。」と抱負を述べました。



水島校長（右）と稲永鳥取県産業技術センター理事長（左）

鳥取県の産業・企業紹介フェアの開催

キャリア支援室長
電気情報工学科 松原 孝史

特別行事初日の10月14日に鳥取県とタイアップして、4年生、専攻科1年生を対象に産業・企業紹介フェアを開催しました。趣旨は、県内の優良企業を学生に紹介することによって、地元就職を促進しようとするものですが、昨今の不況から参加いただいた企業は昨年の26社から17社に激減しました。それに加えて、新型インフルエンザによる4Eの学級閉鎖と重なり寂しいフェアになりましたが、アンケートの集計では学生の88%、企業では100%が良かったと回答がありました。業種別に3会場に分けてそれぞれの学科の学生が会場選択しやすいようにしたのが良かったと思われます。

このフェアは、複数の地元新聞にも記事として扱われ、4M学生の「できれば県内で就職したいが、地元企業の中でも業績が良く安定している点を重視して就職を決めたい」というコメント

が学生の素直な気持ちだろうと思いました。フェアの実施に当たり関係各位のご協力に厚くお礼申し上げます。有難うございました。



フェアに参加した学生達

演劇鑑賞会を開催しました

学生主事 一般科目 竹内 彰継

10月9日（金）に米子市公会堂で演劇鑑賞会を開催しました。劇団は東京芸術座で演目は「12人の怒れる男たち」です。内容は父親殺しの容疑で捕まった少年が有罪か無罪か12人の陪審員が審議する物語で、CGに彩られた今の映画のような派手な展開はありません。そのため、学生の皆さんが最後までおとなしく鑑賞してくれるか非常に心配でした。しかし、さすがプロの劇団だけあり、劇の展開とともに学生の皆さんがどんどん劇に引き込まれていくのがわかりました。そして、少年の無罪が確定した瞬間には泣声すら聞こえました。演劇終了後に行ったアンケートの結果も非常に良く79%の学生が良かったと評価していました。

日本でも今年から裁判員制度が始まりました。学生の皆さんも将来裁判員に選ばれる日が来るかもしれません。学生の皆さんにはこの劇を通して審議を尽くすことの大切さを学んでもらえたと確信しています。



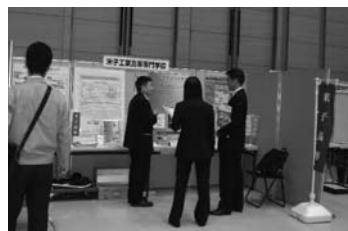
会場の様子

鳥取環境ビジネス交流会

地域共同テクノセンター長補
電気情報工学科 松岡 祐介

10月27日（火）、米子市の米子コンベンションセンターにおいて「鳥取環境ビジネス交流会」が開催され、本校も参加いたしました。同会は鳥取県、鳥取県衛生環境研究所、（地独）鳥取産業センター、（財）鳥取県産業振興機構が主催となり、鳥取県内の企業、自治体、教育機関などが参加しました。環境ビジネスは今後の成長・発展に注目される分野ですが克服すべき課題もあります。それを克服するために「環境」とそれに関するビジネスなどをテーマに、講演会、産官学の研究成果や技術発表、製品紹介などを行い交流を行いました。

本校からは機械工学科の森田慎一准教授が技術シーズ発表を行ったほか、教員が行う環境に関する研究成果のポスターセッションを8件行いました。ポスターセッションのブースではシーズ発表を行った森田准教授のスターリングエンジンの展示も行われ、動きに興味を引かれた方々がエンジンの動作原理の説明を熱心に聞いていました。



米子高専展示ブース

米子工業高等専門学校 開校45周年記念

Eeee フェスティバル2009

地域共同テクノセンター 機械工学科 森田 慎一

米子高専が昭和39年の開校から45周年を迎えたことを記念し、10月10、11日の両日に米子高島屋を会場として「米子高専開校45周年記念Eeee（イー）フェスティバル2009」を開催しました。Eeeeは、米子高専のEngineering(技術)、enjoy（楽しみ）、ecology（環境）、education（教育）の頭文字を取った造語です。屋内会場には、ロボコン、デザコン、プロコン、科学実験教室、専攻科の研究、教育GP、社会人学び直しGP、クラブ活動、寮生活、受験対策コーナーなどを設置しました。屋外会場では、米子高専が開発した大地震発生装置による震度7体験や電気自動車試乗が行われ好評でした。記念行事の学校外開催は初めての試みでしたが、約400名の来場者があり、市民の皆さんに楽しんでいただけました。以下に、アンケート結果を少しだけ紹介します。

◆ **フェスティバル全般**：いろいろなものが見れて楽しかったし、改めて認識した事もあり面白かったです。／展示だけでなく体験するものもあって良かったです。／すごかったです。／子供達のこれからの何かのヒントになれば良いと思います。／思っていたよりも内容が濃く、具体的に表現や表記もしてあり、また現実起こっている環境の事等も興味深い。これからも頑張ってください。

Engineering	Enjoy
◆ ロボコンブース：どうしてこれが動くのか不思議！／よくあんなロボットを作れたと思う。／よく研究してあるなと思います。／ロボコンで使ったロボットの構造や動きがよくわかった。／説明が丁寧で分かり易い。 ◆ プロコン&ロボコンブース：想像豊かで楽しかった。／へえ～！こんな事が出来るんだとびっくりしました。／キーボードとマウスなしで操作できるパソコンには驚きました!!／発想も良く大したものですね。 ◆ 専攻科の研究：専攻科の事がわかりよかったです。／活躍してほしい。	◆ 科学実験教室：丁寧な説明で分かり易く、係の方が親切。／バランスゲームは倒れるかドキドキした。／分子模型とバランスがすごかった。／子供が楽しめました。／とても分かり易く化学が好きになった。 ◆ 建築学科：模型が沢山あり、卒業生の活躍もよくわかる!!／素晴らしいです。／身近な課題と取り込んだ構想になるほどと思いました。
Education	Ecology
◆ 社会人学び直しGP：ゆれの大きさにびっくり。／地震って怖かった。 ◆ 入試案内：斬新なアイデアと思った。／いい練習になった。 ◆ 学生部展示：笑顔が素敵。／クラブ活動の盛んな様子が良く分かった。 ◆ 高砂寮を知る!!：参考になった。／とても楽しそうだった。	◆ 教育GP：とても内容が本格的で説明も分かり易く丁寧だった。／環境を考える時間を持ててよかった。／ラムサール条約との関係について知る事ができた。／本当にこうなれば素敵だと思う。 ◆ 電気自動車：エンジン音がなく臭くもなかった。／乗ってみたい。



会場の様子



テレビ取材



電気自動車試乗



大地震体験装置

“賢い消費者”を目指して学生と県民が学んでいます

一般科目 加藤 博和

本校と鳥取県消費生活センターとの連携講座「くらしの経済・法律講座」を10月5日より開講しております。講義は来年2月8日までの月曜授業日に行い（全14回）、本校4年生42名（選択科目）と、県西部地域を中心に応募のあった一般県民の方毎回50名余りが一緒に授業を受けています。また、この講座は前半を法律分野、後半を経済分野の内容で構成し、講師を本校校長・教員、消費生活センター職員の他、米子市内の弁護士、農水省や税務署、県立公文書館などの公的機関の職員、金融広報アドバイザーなどが務めるというユニークな企画です。今回で3回目となりますが、本年9月に消費者庁が発足し消費者意識が高まる中で、1つの地域貢献モデルとして取り組んでいます。講義内容はもとより、年配の方には「孫と肩を並べる」受講スタイルが受けているようですし、学生にとっては良い緊張感の中で実践的な知識に触れ、県民からの講師への質問なども刺激になっているようです。



公開講座「マイコンによるロボット・コントロール入門」

電子制御工学科 中山 繁生

中学生を対象とした公開講座を、10月3日（土）に県立倉吉未来中心で、そして11月8日（日）には米子コンベンションセンターで開催しました。この講座は昨年度から電子制御工学科が主体となり実施しています。講座で製作指導をおこなったロボットは車型で、家電などにも使用されているマイコンコンピュータ（マイコン）を搭載しており、家電用の赤外線リモコンで操作ができます。講座では駆動部となるギヤボックス製作の他に、ブレッドボードという多数の穴のあいた板に、マイコンや抵抗器などを差し込むことで制御回路を製作しました。ハンダごてを使用せずに回路製作ができることで、受講者にはたいへん好評でした。講座の最後に実施したアンケートの集計結果によれば、受講生全員に講座内容を満足していただいたようでした。最後に、講座の実施に際してご協力をいただきました補助学生、米子高専企画協力係の皆さんには、この場を借りてお礼申し上げます。

※11月8日（日）には公開講座の会場にて、電子制御工学科の紹介、ロボコン・プロコン作品のデモを実施しました。



編集後記

本校でも新型インフルエンザによる学級閉鎖が相次いでいます。学年末へ向けて、勉強が大変な時期になりますが、くれぐれも健康管理には気をつけてもらいたいです。紙面へのご意見・ご感想を、メール（hikona@yonago-k.ac.jp）にてぜひお寄せください。

※記事において、学科名をアルファベットで表している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…一般科目、S…専攻科
例えば、「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報委員会

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448 TEL: 0859-24-5023 FAX: 0859-24-5029 印刷：勝美印刷株式会社
E-mail: hikona@yonago-k.ac.jp ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/ ⇒メニューより「キャンパスライフ」

R100
古紙配合率100%
再生紙を使用しています